

## 第15期 第5回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成29年5月26日（金）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 小平市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、森田委員、市川委員、信山委員、田中委員、白井委員、加藤委員、菊地委員、小林委員、棚井委員、西成委員  
(順不同)
- 傍聴人 0名
- 議題 (1) 第15期小平市緑化推進委員会の検討課題について  
(2) その他
- 配付資料 (1) 第15期緑化推進計画提言 たたき台1

### 会議の要旨

#### 委員長

まず、資料の「第15期緑化推進計画提言 たたき台1」について説明する。

委員長より、資料(1)「第15期緑化推進計画提言 たたき台1」について説明があった。

説明後、次のとおり質疑があった。

#### 委員

タイトルにある「緑化」という言葉は緑がないところに使うイメージがある。小平はすでに緑が豊かな場所なので、「緑化」をより膨らませた言葉の方が良いのではないか。

#### 委員

みどりという言葉には、そこに暮らす生物の環境なども含んだ色々な意味合いがある。ここで言う「緑化」とはそうした環境も含めて作っていくという意味で使われていると思われる。

#### 委員長

緑化にもステージ1の緑化やステージ5の緑化というように段階があり、その中で例えばステージ5には生物多様性の実現などが入ってくるというような具合であろう。また、地域に応じた緑化というものもあり、小平で言えば水が大きく影響してくるので、そこが他市にはない特色であろう。

タイトルについては必ずしも「緑化」という言葉を入れなければならないものではないが、同時に「プチ田舎」という言葉を入れることで、「プチ田舎」にふさわしい上質な「緑化」が求められる。

## **委員**

タイトルから決めると、その後内容を検討する中でタイトルとの矛盾が生じるようなこともある。まずは、内容を検討して決めていけばタイトルは自然と決まってくるのではないか。

## **委員長**

確かに、内容から決めていく手順の方が自然だろう。タイトルについてはそれからでも遅くないと思う。

## **委員**

用水路の沼さらいに関して、沼さらいの際に水が止められるので、水が引いたところで魚が干上がっていることがあり、かわいそうだったが、今年は少し水が残っていて生き物が生きていた。このあたりはどのようにしているのか。

## **事務局**

沼さらいの際は止水作業をするが、生物に配慮し、上流の方では堰を作って水を溜めるなどしている。しかし、その堰が外され、水が流されてしまうようなこともあった。

## **委員**

具体的な提案として、道の駅の自転車版を作って地元野菜を売るというような取組はどうか。

## **委員長**

小川町では民間の自転車置き場が増えている。そういった所でやってみてもいいかもしれない。持続可能とするためには経済サイクルのうえに乗せる必要があるが、これはまさにそうした取組となる。自転車で駅に来る人は多いので、スペースの問題はあるにしても、そうしたところで勝負ができるか、というところだろう。

## 委員

今はコンビニがたくさんあるので、そういうところと協力して、地元野菜を置いてもらうという方が現実的な気もする。今も置いているところはあるが、これをより拡大していったらどうか。

## 委員

小平の農家でも軒先販売がされており、この新鮮さや良さがより浸透すべき。現状では、相続の際などに農業をやめてしまう傾向が強くなっている。

## 委員長

農業生産者にとっても出荷方法の多様性は必要であるし、消費者にとっても購入できる場面の多様性は必要である。それぞれのライフスタイルに応じた地元野菜の購入機会が提供されることが、出荷数の増加にもつながるので、色々な方法をそれぞれ伸ばさなくてはならない。

## 委員

農協の直売所に卸している農家は決まっているということだが、軒先で直接販売をしている農家は小平でどれくらいいるのか。

## 事務局

農協の直売所に卸しているのは直売会というものに所属している方で、50件程度の方がいる。一方、軒先での販売は小さいものも含めれば市内で100件以上やっている。

## 委員

道の駅の取組については、実際にそこに卸す生産者がいるかという問題がある。例えば、新たに家庭菜園などからも卸せるようなシステムなど、生産と販売をつなげる何か良い方法がなければ、無理があるだろう。

## 委員長

あくまで緑化推進委員会であるので、一農業施策についてそこまで深く掘り下げずに、販売と消費の機会の拡大を目指すという中の一つの案として、こういった取組も考えられる、くらいまででもまとめ方としては良いかもしれない。

## 委員

この提案の要点は自転車で行けるくらいのところで新鮮な野菜が手に入れられるということである。「野菜の駅」というネーミングもいいかもしれない。

## 委員

資料の「具体的提案」の中の学校の記念植樹に関連して、上宿小学校の校歌にムラサキという花の名前が入っており、昔は一面に生えていたそうだが、現在は全く生えていない。来年創立40周年を迎えるので、これを校内に復活させられないかと考えているが、なかなか見つからない。

## 委員長

ムラサキはかつて武蔵野台地で栽培されていたと思われる。染料として江戸紫のもとに使われたり、紫根と呼ばれる根に薬効があるので、華岡青洲がそれをもとに紫雲膏という薬を作ったりした。花自体は白い小さな花である。総合学習などで栽培するといった取組はいいと思う。

入手については、かつて井の頭公園の弁天様の灯籠を江戸紫根問屋というところが寄進したということがあり、三鷹でそれを復元するという運動があるので、そこに聞いてもよいかもかもしれない。ただし、栽培は非常に難しく、また、ムラサキの名前で売られている外来種についても注意が必要である。

十三小の校歌にはタイサンボクが出てくるが、校歌や校章など、学校ごとにそういったゆかりのある樹木があると思われるので、そういったものを学校教育の中で追求するという話にしても面白いだろう。

## 委員

資料の「具体的提案」の「市域の末端まで、用水の水が行き渡り、流れるような改善計画策定。」には大いに賛成だが、これには課題がある。まず、流れ込む水量を東京都に増やしてもらえるかということ、次に、たとえ全ての水路に十分な水が行き渡らなくても、見る人に常に水が流れていると感じさせるような、要所への配分の管理があり、これを頭に入れておかなければならないだろう。

それと、「ポケモンGOの用水路での活用。」は、用水路に落ちる危険や、それ自体が少し下火ということもあり反対である。

## 委員

ポケモンGOはあくまで一つの例である。ポケモンGOについては、高齢者がウォーキングをする際に使用するということがあったが、ただ歩くだけではなく、何か目的があるということが歩くことの動機づけとなっていた。なので、ポケモンGOに代わるもので、例えば、玉川上水緑道敷きを歩けば、ここではコゲラが出るというような情報がバーチャルで出てくるような技術が構築されているのであれば、そういったものでもいいだろう。

## 委員

「関係者の協力」ということに関連して、西武線の駅やバスの停留所などに案内板をもっと増やしてもらおうような協力を仰げないか。

## 事務局

以前からそういった依頼はしてきており、最近では以前に比べれば観光掲示板や表示板などを置かせてもらえるような協力が得られる状況になってきている。

## 委員長

広告が集まりづらくなっているという現状も影響しているのではないか。

緑の案内のようなものについては、デザインの技術のある職員がいれば今は自前で作ることも出来るだろう。その設置については、鉄道駅は一つの選択肢として、駅周辺の駐輪場の壁など色々な方法があるだろう。

ポケモンGOについては、それに代わるソフトを観光協会なり美大の学生なりに作ってもらえばいいのかもしれない。この目的としては、歩いてもらうことのほかに、例えば「どんぐり橋」など、水・緑に関連した名前を覚えてもらうということがあるだろう。商品をどこが出すかという問題はありますがマイレージ制度や、ゆくゆくは先ほどの「野菜の駅」と絡めても面白いかもしれない。

## 委員

看板のQRコードを読み込むと、昔の風景や他の場所までの案内などが見られるというのもいいのではないか。

## 事務局

小平市は自転車の事故が多いこともあり、歩きスマホを促すものにならないよう配慮する必要がある。

## 委員

ソフトを作ってもらおうという話について、プログラミング教育が始まるという話も出てきている中では、子どもたちが制作に参加するというのもいいだろう。元気村では子どもたちがゲームなどを作るプログラミングのグループが活動している。

## 委員

市のホームページなどでそういったものを投稿してもらおう仕組みを作ればいいのではないか。

## 委員長

そうなってくると市というよりは観光協会かもしれない。

誰がどう作るかという問題はあるが、いずれにしても、まちを知ることや住みたいまちという観点からいえば、子どもが橋の名前など水や緑に関連するものの名前を覚えるということは非常に意味があるだろう。

#### **委員**

観光協会ではポータルサイトを作ったが、そこに市民が参加する場所も設けてあり、写真などを投稿することが出来るようになっている。

#### **委員**

小平には調べればいわれのようなものがたくさん出てくるものがあるので、そういったものをもっと簡単に知ることができる仕組みがあるとよい。

#### **委員**

マイレージ制度の原資については、市に訪れてもらってお金を落としてもらうという部分を見れば、市から拠出してもバランスが取れると思う。

#### **委員**

緑化基金は現在どれくらい積み立てられているのか。

#### **事務局**

平成27年度末の数字で1億1,200万円で、取り崩しもされている。

#### **委員長**

本来は役所ではなく観光協会あたりが運用して、運用益で回すのがいいのかもしれない。

緑化基金は寄付を積み立てているということだが、お金を寄付してもらう方法のほかに、ものを寄付してもらうという方法もある。東京都でやっている思い出ベンチのように名称表示をしたベンチを寄付してもらったり、樹木を寄付してもらったりする制度があるが、樹木の方は管理者としては扱いが難しい。

#### **委員**

用水路敷きやグリーンロードの玉川上水や野火止用水沿いにそうしたベンチを設置すれば散策の際に休憩するスペースになっていいと思う。

#### **委員長**

用水敷きは屋敷道の部分や幅員の問題があるが、玉川上水や野火止用水沿いは、東京都の管理地以外では可能だろう。

**委員**

グリーンロード沿いの小学校に作ってもらえるのもいいのではないかと。自分たちで作れば愛着もわくので大切にしてくれるだろう。

**委員**

毎日見回りをしているが、自生希少植物種が理解ない人に盗掘されてしまう。こうした部分の理解をいかに深めているかということも課題である。

以上